

### (3) 年齢別人口

#### — 人口の高齢化がさらに進む —

平成27年の人口を年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が11,242人（全人口に占める割合14.0%）、15～64歳の生産年齢人口が47,839人（同59.7%）、65歳以上の高齢人口は20,546人（同25.7%）となっています。これを平成22年の年齢3区分別人口構成比と比較すると年少人口では、14.1%から14.0%と0.1ポイント低くなり、生産年齢人口は62.7%から59.7%と3.0ポイント低くなり、逆に高齢人口は、21.2%から25.7%と4.5ポイント高くなっています。また、年齢構造指数を見ると、年少人口指数は23.5、老年人口指数は42.9、従属人口指数は66.4、老年化指数は182.8になっており、本市では高齢化社会へゆるやかに移行しているといえます。

図5. 年齢3区分別人口の推移  
(平成2年～平成27年)

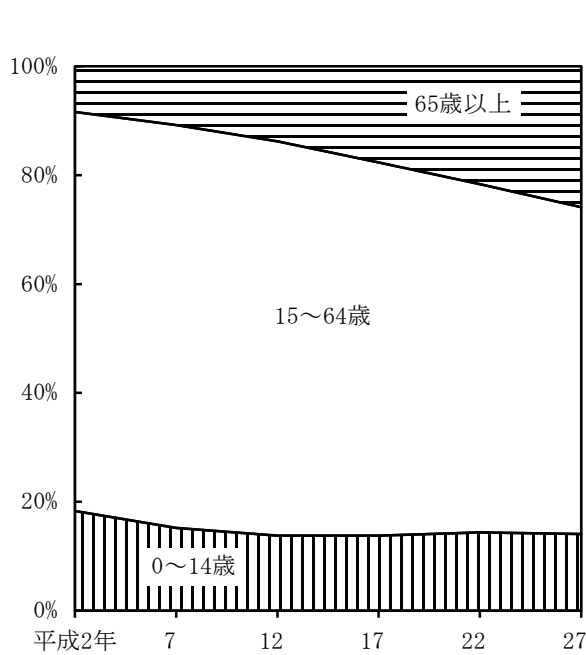


図6. 年齢構造指数の推移  
(平成2年～平成27年)

